

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全2枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1			<p>山中温泉文化会館等跡地周辺整備事業について</p> <p>山中温泉地区会館の整備については、これまで示されてきた「令和6年中に協議会等を設置し、令和7年度の整備着手に向けて取り組む」という方針どおり、昨年12月から5月にかけて、山中温泉地区会館整備検討会が5回開催され、本定例会に山中温泉文化会館と山中児童センターの令和8年度解体を見据えた、解体実施設計業務費等が今回の補正予算で計上された。</p> <p>整備検討会の概要とこれまで出された意見、今後の検討課題、想定されるスケジュールについて問う。</p>	
2			<p>山中温泉ゆけむり健康村の再公募について</p> <p>3月定例会において、「新たな手法で再度の公募型プロポーザルを実施し、次世代のにぎわい創出の場、時代や時勢に即した新たな施設として、既成概念にとらわれない幅広い提案を求めたい。令和7年度のできるだけ早い時期から、公募期間を2か月半程度と想定し、秋頃に交渉権者を決定するようなイメージで考えている」という旨の答弁であった。</p> <p>スケジュール的にそろそろ公募を開始すべき時期と考えるが、募集要項の整理等、状況はどのようになっているのか。</p>	
3			<p>街路樹の対応策と今後の方針について</p> <p>街路樹は景観形成や生活・自然環境の保全など、快適な環境をもたらす様々な役割を果たしているが、近年は落ち葉処理や根上がりによる通行障害、雑草などによる見通しの阻害、地下埋設物の管理阻害などの課題が発生している。これまでその維持管理に協力が不可欠であった地域住民の高齢化に伴い、「街路樹はもういない」との声まで聞くようになった。</p> <p>事例として、市内最大の住宅団地である松が丘では、損傷している街路樹への不安による撤去や植え替え、また、植樹柵のツツジの生育による危険やそれに伴う障害に対し、町内会から改善に向けた要望書が出されている。</p> <p>山中温泉加美谷台では、一部で根上がりにより通学路や高齢者の通行、歩道除雪に支障を来しており、植樹柵の雑草繁茂により見通しの阻害や歩行幅が狭くて歩きにくい所も多い。また、根が側溝にまで入り込み排水を妨げていたことで、この春の側溝清掃は側溝内の根の除去作業に多くの時間を費やした。</p> <p>これら両住宅団地における対応策と、街路樹全般に対する今後の方針について問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
4	<p>通学路の交通安全対策について</p> <p>近年、登下校中の児童らに車が突っ込むという痛ましい事故が全国で相次いでおり、山中温泉地区まちづくり推進協議会や山中中学校運営協議会などにおいて、国道364号の山中温泉ぬくもり診療所前交差点の安全性が問われている。この交差点は山中小・中学生共通の通学路であり、約2kmある旧バイパス上の信号はここだけであるため、スピードを出しやすい場所である。まず、交差点内の児童らが最も集中する大聖寺側の歩道には縁石の設置がなく、防護柵も含めた改善策の必要性について問う。</p> <p>現在の加賀市通学路交通安全プログラムの対策一覧には、「道路が狭いため」に「歩道の設置・拡幅（水路蓋掛け含む）」という対策が多いのが現状であるが、近年の事故の状況を鑑み、新たな視点での各校下の合同点検が必要と考えるが、併せて所見を問う。</p>	
5	<p>加賀温泉郷観光地再生キックオフ式の意義について</p> <p>先月、加賀温泉郷観光地再生キックオフ式が開催され、市長提出議案説明で、「加賀温泉郷観光消費額1,000億円構想というスローガンを掲げ、観光客数400万人という大きな目標を目指す。自然や文化などを生かした観光コンテンツをより充実させ、強力に誘客を促進する」とのことであり、その意気込みと構想の実現に大いに期待している。</p> <p>しかし、一方で参加者からは、「旅行形態やニーズが様変わりして、旅館は半減以下で業態も変化し、加えて深刻な人手不足。そのような状況で400万人はあまりにもかけ離れている」との声が多く聞かれた。</p> <p>現時点では、第2次加賀市観光戦略プランの達成目標220万人にも届いていないのに、あえてその数字を飛び越えての本構想の意義を問う。</p>	
6	<p>高付加価値商品造成・プロモーション事業について</p> <p>本定例会補正予算の主要事業として、インバウンド観光による持続可能な地域振興に寄与するとのことである。</p> <p>加賀市における高付加価値商品、富裕層向け体験コンテンツとは、具体的にはどのようなものを想定しているのか。さらなるインバウンド政策、特に伸びしろのある欧米への取組について所見を問う。</p>	